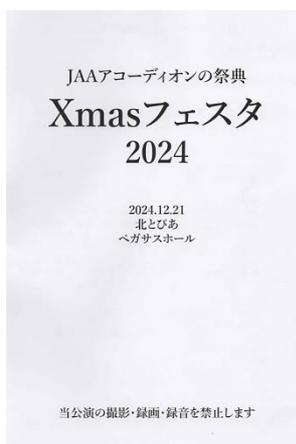


JAA アコーディオンの祭典 Xmas フェスタ 2024

2024年12月21日 北とびあ ペガサスホール 15:00~



今年（もう昨年になってしまいました）のXmas フェスタは「思いっきり楽しむぞ」とワクワクしながら参加しました。というのも、前回までの4回は仕事で不参加が2回、選抜参加で余裕なしが2回。合奏のみの参加でゆっくり満喫できるXmas フェスタは今回が初めてなのです。

受付を済ませて特別セッション練習会場の部屋に…。あっ、カチューシャ！演奏の時に被る「ちょっとした物」を用意しておきま



すって言うていたっけ。三角帽子やトナカイの角、色とりどりのクリスマス仕様のカチューシャが1つ1つの椅子の上に乗っています。「受付通って3分でもう楽しい♡」自分の場所に行ってアコーディオンを用意しながら（気に入ったカチューシャと取りかえちゃったりしながら）素敵な1日が始まりました。

Xmas フェスタ第1部はインターネットわくわく広場 2024 選抜演奏。同じサークル仲間の2人組、3人組は息の合った気持ちの良い演奏。腕自慢のユニットやベテランのグループは「皆で音楽を楽しもう」と誘うようなダイナミックな演奏。ソロの出演者は

体を揺らして楽しそうに弾いたり、自分のアコーディオンが奏でる美しい音に耳を傾けながら弾いたり、それぞれの演奏曲を慈しむような演奏がとても素敵でした。

第一部の最後に、「第5回インターネットわくわく広場」参加者への表彰式が行われ、プレゼンター（山岡秀明先生）から賞状が授与されました。

第2部はプロのコンサートです。演奏中に舞台バックのカーテンを開けると夕間暮れの街並みが。そこに流れるアコーディオンの音色。なんて素敵なんでしょう。ああ贅沢。ああ楽しい。と感じながらも、たくさんの方々がアコーディオンを愛好する私たちのために力を貸し気持ちを傾けてくださることに感謝の気持ちを強くしました。

そしていよいよ特別セッション Disney Medley。編曲・指揮・指導は柴崎和圭先生、5パート+Bassパート計30名による大編成です。5回の練習を経て迎えた本番。初めて会う方や演奏を聴き合う顔見知り練習を重ねるうちに言葉を交わし、一緒に音楽を作り上げる仲間になりました。

踊る〇〇に見る〇〇。同じ〇〇なら踊らにゃ損々。皆さん、来年はぜひ参加して一緒に心躍らせましょう！

（織田裕美）



JAPC 主催 アコーディオニスト・大新年会 2025

2025 年 1 月 12 日 (日) 17:30~ 会場: ピアノタ日暮里 (JR 日暮里駅より徒歩 2 分)

まだ正月気分の残る 1 月 12 日 (日) JAPC 主催の弾き放題、聴き放題、飲み放題のアコーディオン愛好家の大新年会が催されました。筆者はこの新年会に参加するのは初めてでしたが、どんな 1 年が始まるのか楽しみに足を運んでみました。

挨拶と乾杯 JAPC 代表小川正浩



『みなさん、明けましておめでとうございます。(おめでとうございます) 今年もどうぞよろしくお願い致します。JAPC は恒例の夏と冬のイベント

を開催しておりますけれども大変盛り上がり、本当に楽しいメンバーに恵まれていると思います。今日もおそらく楽しい時間を過ごしていただけたと思います。今日は飲んで、演奏して、聴いて大いに楽しみたいと思います』と挨拶。

乾杯(小川正浩) それでは乾杯の音頭を取らせていただきます。

今年も「アコーディオン界の発展を願って“乾杯”」(乾杯・拍手)

乾杯の後、イタリアンコース料理と飲み放題でしばらく歓談。参加者の中には関東アコに参加されている方、大阪で開かれる「ビバ・アコ」で見る方、JAAXmas フェスタで演奏された方など、ここで演奏することを楽しみに参加された方も多かったようでした。(筆者は聴き手で参加)

会の進行は、事務局の島田彩乃さん。弾き始めは、JAPC 代表の小川正浩さんと副代表の真野照久さんによる重奏「インディファレンス」。(左の写真)



軽快な 3 拍子の演奏で幕が開きました。

続いて、希望された演奏者の前に、話題



の新製品「KORG (コルグ) 社の電子アコーディオンによるデモ演奏が行われました。

日本ではまだ未発売だそうです。

(新年会の始まる

前の時間 15:00~トンプ楽器ショールームで「展示試奏会」が開催されていまして)

クラリネット風な音色、アコーディオンの音色で「パリの空の下」、バンジョーのようなビブラートを付けた演奏、ピッコロカフルートのような音色でスキップするような演奏、ホルンの音色でオーケストラ風に「美しき青きドナウ」等、多彩な音色を使って演奏されました。(上の写真)

演奏者(開発担当のファティさん)は日本語も上手で、司会のインタビューに「8 歳からアコーディオンを始めた」と答えていました。また、この楽器の特徴は「蛇腹で空気を送るアコーディオンという形を使って蛇腹の表現力で様々な音色を楽しむことができること、ボタン式と鍵盤式と両方用意しています」と紹介されていました。

以降、順次申込みされていた方の演奏が続きます。♪シング シング シング ♪歌謡曲メドレー(「愛しちゃったのよ」「別れても好きな人」他)、♪I LOVE YOU、♪弾き語り(オリジナル曲を歌いながらの演奏)、♪魅惑のワルツ、♪ミュゼットの女王、♪銀河鉄道 999、♪スケーターズ・ワルツ、スケーターズ・ワルツを演奏された方は、インタビューに 85 歳ですと答えていました。今日演奏される方の中では最高齢ではないでしょうかと話していました。

筆者がかつて「私とアコーディオン」の夕

イトルで取材したことのある方で、山歩きが趣味で小型のアコーディオンを担いで山に登っていたときの写真などを見せていただいたことがあります。お元気な方です。

次は ♪スタイルミュゼット、後半で ♪パリの空の下セーヌは流れる、を演奏された方は、アコーディオン歴を聞かれたインタビューに、「何年でしょうね、もう、40うん年」と答えていました。この方は大阪のピバ・アコーディオンでもお会いする方です。

ここで来賓紹介。コルグ電子アコーディオン国内営業部長・前坂さん、マーケティング担当・吉川さん、開発担当・ファティさん、株式会社谷口楽器代表取締役社長・岩田浩さん、株式会社池部楽器店・安倍純二さん、アコーディオニスト檜山学さん、株式会社トシボ楽器代表・真野照久さんの紹介がありました。

また、「イケベアコーディオン教室に2月から（檜山学教室）が復活、開講されます」と池部楽器店の安倍純二さんより紹介がありました。（受付に1月19日開催、2月開講記念のワークショップのチラシが置かれていました）

演奏に戻って、♪哀愁のミュゼット、この曲を演奏した方は、この会の進行役で、昨年の関東アコ（重奏の部）に出場され2位入賞されました。今日はソロ演奏です。

♪次の演奏曲は「Il pasition」(Titoli)のように思ったけれど、演奏された方は、昨年12月、JAAXmas フェスタ第2部に「パパガイオス」のユニット名で演奏されたお一人です。

最後は、檜山学さんと、森元学さんによる重奏で（ゲズブールのLa Javanaise）を演奏。掛け合いの素敵な演奏でした。

森元学さんは、前半で「パリの空の下セーヌは流れる」を弾かれた方で、急にお願いされて、あうんの呼吸でさっと演奏される姿はさすがです。※曲名は後日、檜山学さんにメールでお聞きして教えていただきました。

閉会の挨拶 JAPC 副会長・真野照久さん。
『お忙しい中こんなに大勢お集まりいただきありがとうございます。今日はみなさ



んのいろいろな演奏や「コルグ」の新しい楽器、電子アコーディオンの可能性を感じさせていただきました。本当に欲しいなと思いました』と挨拶。

予約した時間になり、「音楽家らしく（ポン）の後にちょっと余韻を楽しむように」と、みなさんのご健勝を祈念して“よう、ポン”の1本で締めました。



（上の写真）（拍手）

引き続き残って交流される方は、30分500円で歓談されていました。

◇◇◇演奏された方々の様子◇◇◇

（順不同、電子楽器「コルグ」の演奏と最初の演奏は6ページで紹介しているので、除いています）



演奏曲名が分からず載せられなかった方、写真が撮れなかった方もおります。失礼した方ごめんなさい。今年もアコーディオンの音色で楽しい1年の始まりとなりました。

（乙津）

横浜アコーディオン愛好会発表会

2025年1月19日(日) 13:00～ 横浜青年館 多目的ホール



いつもは11月に行われている発表会ですが、昨年、会場となる会館の管理者が変更した関係で年を越しての開催となりました。困ったのは、いつも司会をして下さる関さんがこの日は都合が悪い事。すると、その話を聞いた本田さんの奥様が引き受けて下さいました。3年前に病気で倒れた横アコのコンマスの奥様です。「年に一度、本田の入居施設で横アコの皆さんに演奏して頂いているお礼です。」とのお言葉には感謝しかありませんでした。

当日は寒い中にも関わらず、40人程のお客様がいらっしやり、慣れない司会を務める奥様はやや緊張気味でしたが、段々と場の雰囲気慣れて行かれ、二部の始まる頃には冗談を交えた司会となり、会場は和やかな雰囲気に包まれました。流石コンマスの奥様！
明るいノリが本田さんにそっくりです。

一部は合奏曲の新曲として、松永勇次編曲の「冬景色」を弾きました。ゆっくりとしたテン

ポで堂々と弾けたと思います。

二部のトリには森先生と佐藤のデュオで、「哀愁のミュゼット」を弾きました。奥様に聴いていただけるので、本田さんのブガリの3M(ミュゼットスイッチ)で弾きました。会場から大きな拍手を頂き感無量でした。

合奏の最後には関東アコ演奏交流会で披露した、打楽器ボンゴも入れたキューバ音楽「タブー」を弾きました。演奏後に“ブラボー”の声が発せられ大変嬉しかったです。

アンコールの「ラ・メール」の後には、皆さんと西田敏行の「もしもピアノが弾けたなら」の替え歌を歌いました。メンバーの黒田康弘が作ったユニークな歌詞が会場の笑いを誘っていました。

発表会後の親睦会は日本酒が豊富な和食店で行い、奥様もご一緒に参加し、皆、程よく酔って散会となりました。良い一日でした。

2025年の横アコ発表会はいつも通り11月に行う予定です。どうぞ、よろしくお願い致します。

横浜アコーディオン愛好会
佐藤優美子

替え歌「もしもピアノが弾けたなら」 (アコ)

- (1) もしもピアノが弾けたなら
 思いのすべてを 歌にして
 君に伝えることだろう
 雨の降る日は 雨のように
 風吹く夜には 風のように
 晴れた朝には 晴れやかに
 だけど僕には アコがある
 人に聞かせる 腕はなく
 新譜もすぐには弾けないが
 練習だけは 続けてる
 アーアア アーアア アーアア
 続けてる
- (2) もしも上手に 弾けたなら
 たまには大きな 音を出し
 君に聞かせる事だろう
 隣の事など 気にせずに
 ジャバラをいっぱい 押し開き
 心の憂さを 晴らしたい
 そうだ僕には アコがある
 重さに負けず 頑張って
 いつかは好きな この曲で
 君の拍手を 貰いたい
 アーアア アーアア アーアア
 貰いたい

プログラム

《合奏》

- 1 80日間世界一周 編曲/石居庸介
- 2 マイボニー 編曲/ラースホルム
- 3 冬景色 唱歌 編曲/松永勇次

《独奏・アンサンブル》

- 1 My Heart Is Lost マニアンテ
- 2 テネシーワルツ 編曲/石居庸介
- 3 さんぽ 編曲/川口裕志
- 4 白い花の咲く頃 編曲/伴典哉
- 5 エストレリータ 編曲/金子元孝
- 6 夜のタンゴ 編曲/石居庸介 (重奏)
- 7 男と女 編曲/青山義久
- 8 ジャズワルツ 編曲/石居庸介

《休憩》

- 1 いつも何度でも
編曲/T. Matsubara
- 2 ひまわり 編曲/坂本光代
- 3 ハンガリー舞曲第四番
編曲/小暮正雄
- 4 Gankino oro
セミヨーノフ
- 5 イル・ポストイーノ
編曲/W. Shibasaki
- 6 哀愁のミュゼット (重奏)
作曲/桑山哲也
〈講師演奏〉
ブルーゼット
作曲/トゥーツ・シールマンズ
- 《合奏》
タブー 編曲/石居庸介

第12回 大田智美クラス・アコーディオン演奏発表会・感想記

日時：2025年2月11日（火）14時～ 会場：音楽センター会館B1ホール

大田智美先生に個人レッスンを受けている生徒さんの発表会です。カルフルの工藤さんからの情報で急遽おじゃましました。



プログラムは第一部と第二部に別れ、14名のソロ（そのうち2名はデュオ）と2組のアンサンブルの演奏がありました。曲目はバラエティに富み、演奏者は小学生から人生のベテランまで幅広く、皆さん熱演でコンサートを聴かせていただいたようでした。以下、演奏曲の紹介と私の感想です。

【第一部】

1番 M.Y.さんは、L.ホルム編曲「Magdeburger-Polka」を演奏。習い出して間もないとのことで大田先生とのデュオでしたが、柔らかな美しい響きが素敵でした。すぐに上達していかれそうです。

2番 Y.I.さんは、K.オット作曲「Trip Into The Blue」と、いずみたく作曲「ゲゲゲの鬼太郎」の2曲。クラシック的な曲とアニメの曲と、全く傾向の違う曲を演奏されましたが、どちらも好きで弾きたかったと伝わってくる感じでした。

3番 M.M.さんは、G.ヘンデル作曲「オペラ「リナルド」よりアリア」。私を泣かせてください（涙流れるままに）という有名なアリアを、ご自身の人生が滲みでるように楽器で歌っていました。

4番 M.F.さんは、石川美恵子作曲「SORCERAN」よりエンディングII。人気のコンピューターゲームミュージックを本人が編曲しています。子供の頃にゲームに熱中されていたのでしょうか。Fさんは作曲、編曲にも意欲的で、音楽の幅を広げていく様子に目が離せません。

5番 M.G.さんは、J.S.バッハ作曲「「ゴルトベルク変奏曲」よりアリア／第1ヴァリエーション」。すごい、バッハのゴルトベルク！と素敵な演奏に驚いたら、これから第10ヴァリエーションまで弾く計画と後から伺い眼が点です。是非聴きたいです。

6番 H.N.さんは、E.デルベンコ作曲「「LITTLE SUITE」よりポルカ／雄鶏」。デルベンコはロシアのコンテンポラリーな作曲家。小学生と思われる若い奏者がこういう曲を弾きこなすのは大田教室ならではのと思いました。小品とはいえとても迫力がありました。

7番 M.K.さんは、J.S.バッハ作曲「平均律クラヴィーア曲集第1巻第1番プレリュード」、A.ユアール作曲「En Coup de Vent」の2曲。アコーディオン弾き語りのKさんですが、基本をきちんと学び直したいと最近入られたとか。ドイツバロックとフランスのジャバと幅広く、美声を封印しての演奏も流石でした。

8番目 Oさん、Gさん、Hさんのトリオで、A.アステイエ作曲「バロック嬉遊曲」。「古い昔の曲」で有名なアステイエですが「バロック嬉遊曲」も素晴らしい曲です。この曲を紹介していただいたお三方に感謝したいと聴くたびに思います。とても息のあった演奏でした。



【第二部】

20分の休憩の後、後半の第二部です。

9番目 T.I.さんは Y.フレンケリ作曲「鶴」。悲しくも美しいメロディに心打たれました。この曲は、ソビエトの詩人が広島被爆者の千羽鶴の話に感銘を受けて作った詩から生まれたものです。教室に入って間もないので、弾きこんでまた演奏していきたくて意欲的なIさんでした。

10番目 K.H.さんは野村誠作曲「動物の演劇」よりオットセイ」。演奏が始まると、オットセイが水槽の中で、ほわ～ん、ほわ～ん、と泳いでいました。後半はオットセイが細かく動きまわって泡や水の流れが生まれる感じで、Hさんの繊細な表現が情景を描いてくれました。音の表現がとても面白かったです。

11番 N.O.さんは P.チャイコフスキー作曲「舟歌」。有名なピアノ曲ですが、哀愁に溢れていてアコーディオンにとっても合っていました。それはOさんの演奏がとても滑らかで柔らかく歌っているからかもしれません。ずっと聴いていたくなりました。「鶴」もそうですが、故中山英雄先生の編曲は財産ですね。

12番 M.T.さんは V.モンティ作曲「CZARDAS」。ヴァイオリンの超絶技巧曲として知られるチャルダッシュ。アコーディオンでももちろん難しい曲です。静岡から来ている中学生のTさんは、次々にアコーディオンの名曲挑戦中のように。まさに伸び盛りですね。

13番 T.S.さんは A.ピアソラ作曲「Fracanapa」。歯切れの良いタンゴを力強く演奏されました。メロディーパターンが繰り返されるのもハマります。ピアソラの曲はバンド編成が多いのでソロで弾くのは大変かと思いますが、リズム感もあってカッコ良かったです。

14番 C.H.さんはバンドネオンで出演。「Tanti Anni Prima」は大田先生と、「天使のミロンガ」はピアノのE.T.さんと、A.ピアソラ作曲の2曲をデュオで聴かせてくれました。ピアニストのHさんはピアソラが弾きたくてアコーディオンを始めたと同っていましたが、今度はバンドネオンを手にし、あっという間に素敵な演奏を披露されたのにため息です。特

に「天使のミロンガ」は、天使が場末で刺殺されるという悲しみの演奏が迫力でした。

15番 F.M.さんは D.スカララッティ作曲「ソナタ ニ短調 K.140」、N.チャイキン作曲「ソナタ 第一番ロ短調より第4楽章」の2曲。どちらも超難曲に聴こえ目も見開きましたが、力強くスピーディに演奏しきってくれました。ニコライ・チャイキン(1915-2000)はバヤン史に大きな影響を与えたウクライナの作曲家だそうです、私などは初めて知る名前でした。次の世界的コンクールの課題曲なのでしょうか。これまで聴いたことのない曲を次々に演奏してくれる姿が楽しみです。

16番は東京音楽大学アンサンブル講座受講者の皆さんによる合奏で、E.グreek作曲「ホルベルク組曲」よりガボットとミュゼット」。本来受講された10名のうち、Y.I.さん N.O.さん S.O.さん S.S.さん T.S.さん K.H.さん H.H.さんの7名で演奏されました。昨年秋に東京音楽大学で開催されたアンサンブル講座ですが、発表の場がなかったのが残念という声に、急遽講師の大田先生からお声がけして演奏の運びとなったそうです。この組曲全曲を2022年に御喜美江先生と大田先生がデュオで演奏されていましたが、そのうちのフランス風舞曲を合奏で聴けるとは思いもよりませんでした。今年も6月から開講するので興味のある方は是非との紹介がありました。



最後は講師特別演奏で、超ご多忙にもかかわらず、大田先生が2曲を演奏してくださいました。曲目は佐藤芳明作曲「CD「伏線」から点描的練習曲 I 蒸気」、P.マッコネン作曲「Like Swans」でプロの演奏を堪能しました。

大田先生のクラスなので、ボタンアコーディオン、フリーベースアコーディオンの方が目につきますが、鍵盤でスタンダードアコーディオンの方も多く、各自の音楽表現を楽しませてもらいました。初めに触れたように、発表会とは思えない曲目が沢山ならび、聴きごたえのある会でした。終演してからは写真撮影や、聴講者も交えての茶話会もあり、緊張も解けてアットホームな雰囲気に変わっていました。

毎年2月11日祝日の午後、音楽センター会館で、と予定されているそうです。いつもお知らせが遅くなってしまふけれど来年も聴きにきてくださいとのアナウンスが嬉しく、来年も是非と思ひながら帰路につきました。(記：浅川)

サジヒロミ (弾き語りアコーディオニスト) ライブ その I 2025年2月16日(日) MARIMO café65 アートカフェ 20:00~(練馬)



お店は練馬駅北口から7、8分ほどの住宅街の中にあるのですが、暗い夜道で小さな入り口を見つけるのに手間取ってしまった。写真のペンギンが目印だそうです。ペンギンの左に見える細い路地を数メートル入った先にありました。友達の絵描きさんたち、まりりんさん&紅緒さんの2人展でのイベントだとお誘いのメールを頂き出かけてみました。

店内に入るとピンクのカツラで派手な服装のお客さんが居られ“この人誰？”って思っていたけれど、『新宿からタイガーさんが来て下さっています。わざわざいらして下さったことに感謝の気持ちを込めてタイガーさんを題材にした歌を歌ってみたいと思います。』と語られたので「タイガーさん」と呼ばれている方だと知りました。今日のステージは、そのタイガーさんの人生に寄り添ってみる。そんな物語形式で進みました。

※タイガーさんについての豆知識 PRESIDENT online Gemba Leb 代表、経済ジャーナリスト/安井孝之氏の「連載ルポ」2020/05/03 より一部転記。=※編集部=

ピンクのアフロヘアのカツラにタイゲーマスクのお面をかぶり花柄の衣装をまとい、新宿で54年新聞配達を続けていた専属の配達員です。

(※ルポライターの安井孝之さんは、)朝刊を配る早朝に何度もタイゲーマスクに出くわし、そのたびに「おかしなおっさんだなあ」と感じたことと記されています。

(※2019年3月)には「新宿タイガー」というタイトルでドキュメンタリー映画がテアトル新宿などで上映された。

(※タイガーさんは1948年2月、現在の松本市で生まれたと記されてある。筆者は1947年2月生まれなのでちょうど1学年下の生まれになる。)

当時は学生運動などもあって、1968年に大学を2年で退学し専業の新聞配達員になる。新聞販売店に住み込めばそれなりに暮らしていた。

最初に担当した新宿界隈は、硬軟織り混ざった雑多な街で、夕刊配達後に映画館に入り浸っていたところ、稲荷鬼王神社でタイゲーマスクのお面に出会う。

販売店の定年は65歳だったが、延長してもらい72歳まで社員として働いた。この3月(※2020年)嘱託社員となった。それを機に新聞配達を卒

業し、集金業務だけを続けることになった。

ルポライターの安井孝之氏は「お金よりも夢」「僕には引退という言葉はないよ、足腰が動かなくなるまで働くよ」と(※タイガーさん)の言葉を記しています。

さて話をステージに進めます。

・ピンクレディーのMonsterを元歌に歌詞を付けてタイガー、タイガー、タイガー〜と歌います。傍らで聞くタイガーさん、とても嬉しそうでした。

・続いてお友達紹介・・・恥ずかしがって隠れているお友達(ぴんかちゃん)を呼び出す歌をうたい終わったら“せーの”に続いて「ぴんかちゃん」とお客さんは協力して呼びます。一度練習し本番。(壁に飾られている絵はお友達の作品)



ぴんかちゃんが登場したところでぴんかちゃんの気持ちを表した曲(小泉今日子の「木枯しに抱かれて」)を歌います。



歌い終わるとぴんかちゃんからタイガーさんにバレンタインチョコをプレゼント。タイガーさんは大感激。

続いて、大正ロマンを代表する「宵待草」を歌います。「歌詞の1番は竹下夢二の詩が基になっていて、2番は西条八十の詩で歌います」と解説。

ぴんかちゃんは過ぎ去りし恋を思い出し悲しい気持ちになり涙があふれ出ます。



そこで、八代亜紀の「雨の慕情」を歌って欲しいと、ぴんかちゃんからリクエスト（歌詞の「あめあめふれふれもっとふれ」のところは振り付けを入れて欲しいとお願いがあって、お客さんも一緒に右手で振りを付けます。

続いてぴんかちゃんも歌いたくなり「カントリー・ロード」を歌います。ぴんかちゃん、涙も消え新しい愛に目覚めました。そこでぴんかちゃんに変わって次の歌は「愛のある場所」♪大きな曲がり角を曲がったなら 走りだそう・・・と歌います。

そして、ぴんかちゃんからタイガーさんへお願いが、（タイガーさん・・・何でも聞きますよ）加山雄三の「君といつまでも」の中に重要なパート（間奏の台詞）があります。

“幸せだな 僕は君といる時が いちばん幸せなんだ・・・この台詞をタイガーさんが入れて欲しいとお願いして歌います。タイガーさんが台詞を入れるとお客さんから大きな拍手。

今のは「男目線での愛のメッセージでした。次は女目線での愛のメッセージ」ということでエディット・ピアフの「愛の讃歌」そして最後の曲はテレサ・テンの「時の流れに身をまかせ」。



譜面台に歌詞を止めてお客さんが一緒に歌えるよう工

夫されていました。

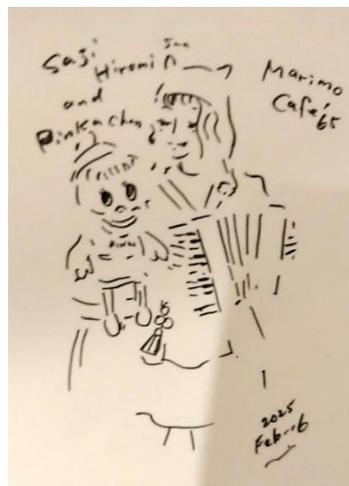
アンコールの声に、オリジナル曲は海の旅になぞらえた曲。この曲の中に船員さんのかけ声で「ヨーソロー」（日本の言葉で、よろしく候がナマッタと解説）の歌詞が出てくる。そのヨーソローのところをお客さんは「パン・パパン」と手拍子で応援します。一度リハーサル。

終了後、初めてアコーディオンに触れるお客さんもいて、思い思いに音を出して楽しむ時間をつくっていました。また、タイガーさん、ぴんかちゃん、サジヒロミさんと個別に記念写真を撮る方、最後に全員で記念写真を撮り終了となりました。



『今日はタイガーさんをテーマにした物語で構成しました』とおっしゃっていました。

筆者は、サジヒロミさんのライブを観るのは初めてですが、ちょっと変わった弾き語りを楽しませて



いただきました。

頭上にはお店の天井から絵描きさん作成の様々な色付けされた猫のお面（形は同じ）が吊り下げられていて、今日のお客さん一人一人に気に入ったお面をプレゼントされました。←絵描きのまりりんさんが演奏中に描い

た似顔絵（はがき大）



外見は派手だけれど子どものように純朴なタイガーさんの素顔が印象に残りました。

狭いながらもお客さんで一杯の温もりのあるお店で、素敵なライブした。筆者（左）もぴんかちゃんと一緒に記念撮影。（記：乙津）

サジヒロミ (弾き語りアコーディオニスト) ライブ そのII

2025年2月18日(火) Yukatの森 19:30~ (横浜・関内)



サジヒロミさん(以降サジさん)からライブのお知らせを頂き取材の話をしていただいたのはこちらが先でした。サジさんから Yukat の森に取材の意向を伝えていただき、オーナーから録音、写真の許可等がいただけて実現しました。その後にお誘いのあった練馬でのライブの二日後ということで続いたけれど、「練馬とはまた違う一面を見ていただける」ということで楽しみに取材に出かけました。

お店は横浜 DeNA ベイスターズ球場の公園側に近く、道路に面したビルの1階です。写真は入り口の様子、歩道にプロジェクトマッピングで映像が映し出されていました。

18:30 から取材の打ち合わせを約束していたので、5分ほど早く到着すると、店内はリハーサル中でした。どうぞということで、失礼してリハーサルの最後をちょっと見ることができました。

海のイメージなのかブルーライトの中で、打ち合わせの時間帯は、サジさんとおしゃべりになってしまいました。

サジさんのこのお店での出演は基本的に水曜日で、今日は変則。仕事の都合等で水曜日に入れないときは変えていただいているとのこと。

初めて足を運んだお店ですが店のオーナーは笑顔で迎えてくださり、筆者は気持ちが高になり助かりました。お腹もすいていて、メニューから無限カレー(焼き野菜がたっぷり入っている)と日本酒を注文、共に大変おいしく満足でした。

ファーストステージ 19:30~



最初の曲は、坂本九の「見上げてごらん夜の星を」。オーナーがキーボード・歌、サジさんはアコーディオン・歌です。『この歌を歌うと坂本九さんが飛行機事故で亡くなったことを思い出す』『僕はあのとき梅田(大阪)でこのような演奏をしていて、当時は Net や SNS も無かった時代だったから、マスコミ関係のお客様が騒ぎ出して事故を知りました。あの飛行機事故で僕の友達もたくさん亡くなっている』などと、オーナーとサジさんと掛け合いのようにおしゃべりしながら演奏が続きます。

次の曲は『乙津さん、パリといえば・・・』『シャンゼリゼ通り』大正解ということで「オー・シャ

ンゼリゼ」(この時、お客さんはまだ筆者一人だった)越路吹雪バージョンで歌ったと解説。『調べてみたら、越路吹雪さんは存命であれば今年で百歳になるんですね』『生誕百年』『パリオリンピックでも歌われたエディットピアフの「愛の讃歌」を歌いましょうか』『今日はアコーディオンなしバージョンで歌います』とこの曲はオーナーの伴奏にサジさんはスタンディングボーカルでした。

サジさんは、オーナーから宿題を出されるといわれます。オーナーは、「お酒が入る世界ですから、普段行われているところと違うと思うので、お客さんに合わせて歌を選ばなければいけない。その後、今度アコーディオンだけの演奏もやっていたらどうかと考えている」とおっしゃっていて、そう考えると、サジさんに一番会うのは“シャンソン”かな、オーナー的には他に“中島みゆきさん”も合いそうとも・・・サジさんはとても勉強家、熱心な方なので表現の豊かな歌手さんになっていただけるんじゃないかなと、サジさんへの期待を語っていました。居心地が良くて2回目のステージまで聴いてしまいました。

セカンドステージでは、椅子の上を歩かれお客さんとハイタッチしたり握手したりとお店全体をステージとして使っていました。



「自分の中では今、パリのシャンゼリゼ通りを歩いているんです」と、ちなみに、いちばん入り口寄りに座っていた筆者の席は凱旋門だそうです。他に「サン・トワ・マミー」、「ろくでなし」、「ラストダンスは私に」など歌っていました。

サジさん、オーナーの藤野さん、楽しいひとときをありがとうございました。

(記:乙津)

神奈川のうたごえ 75 周年記念祭典大音楽会に参加して

2025 年 3 月 9 日（日）神奈川県立音楽堂 13：30～

神奈川のうたごえ祭典には、このところ参加が恒例となっている私たちです。ことしも鶴見アコーディオンクラブ、音楽センター南部教室、横浜アコーディオン愛好会、その OB 等有志 18 名が「神奈川アコーディオン合同」として合奏で参加しました。

普段は、共通の譜面を使い各団体でそれぞれ練習し、開催日が近づいた 1 月に 1 回、2 月に 1 回、日曜日を使っの合同練習。また、当日も 30 分の指ならしと 20 分の舞台リハを行い本番を迎えました。

私たちのアコーディオン合奏は 2 番目なので、オープニングにゲストで迎えた「横浜市立中沢小学校合唱団」の合唱♪「天空の歌」♪「地球を包む歌声」♪「ドレミの歌」♪「青い空は」など 6 曲聴いたところで席を立ち準備を整えて下手で待機。今年は、反核メドレー「ひろしまから」作曲：清村杜夫/「原爆を許すまじ」作曲：木下航二 編曲：清村杜夫、と「サウンド・オブ・ミュージック」作曲：Richard Rodgers 編曲：青山義久の 2 曲演奏しました。1, 100 人から入る満員の客席から一緒に歌っている声も聞こえてきて合奏の喜びを感じながら元気いっぱい演奏してきました。また、指揮指導された森陽介先生は他の伴奏にも加わりました。（記：乙津）

※写真は舞台の感じ、バックのスクリーンには歌詞や背景が映される。



私たちの舞台配置図(段の手前を使用)



「サー・アンドラーシュ・シフ(指揮&ピアノ) カペラ・アンドレア・バルカ」の演奏を聴きました。

3 月 21 日(金)ミューザ川崎シンフォニーホール 19：00 開演

筆者は巨匠ピアニストの一人と言われる、アンドラーシュ・シフが、四半世紀にわたって競演して



きた「カペラ・アンドレア・バルカ (CAB)」との演奏活動を 2025 年秋～26 年夏のシーズンで終わるという新聞記事を目にしました。CAB の今のメンバーの中には 80 歳を超える演奏家もいるが「一般のオーケストラのようにメンバー交代をしたくない。」と設立当初のメンバーが情熱を持ち続けられるうちに終止符を打つのがその理由との記事です。日本公演は、3 月 21 日(金)ミューザ川崎シン

フォニーホールを皮切りに、大阪(堺市)、京都(京都市)で 26 日まで公演と記されていました。

「カペラ・アンドレア・バルカ」は、弦楽四重奏団のメンバーが多く、普段はソリスト、室内楽奏者として世界的に活躍している音楽家たちで、「ピアニストと互いに聴き会い、尊敬し合って演奏するのが私たち」との新聞、チラシの記事に興味を持ちました。

川崎での演奏曲は、オール・J. S. バッハ・プログラムで、ピアノ協奏曲第 1 番～5 番、第 7 番でした。舞台配置が変わっていて、ピアノを中心にチェロは人数の関係が客席からみて左手にまとまっていたけれど、バイオリンはほぼ同数が左右に分かれ、コントラバスも左右に置かれていました。

筆者も教室合奏の際、メロディーパート側の人たちからベースの音が聞こえにくいと言われる事がある。アコーディオンはベース側の音は左へ向って出ていく楽器の特性もあるので、人数が多ければこのような配置を採用してみても良いのではと思いついていました。（記：乙津）

東京アコーディオン研究会 内部発表会

2025年3月16日(日) 新宿区牛込筆筈地域センター5階 コンドル 14:00開演

例年、さくらの開花より一足早いこの時期に開催される「アコ研」のコンサートです。内部発表会とうたわれているように、多方面に声かけている様子はないけれど、関東アコに毎回出場する団体ということもあって、アコ研の内部発表会は毎年楽しみにしている一つです。

会場は都営大江戸線「牛込神楽坂」駅に直結しているので、雨天だった今回はありがたかったです。

ホールへは入り口でスリッパに履き替えて入ります。定刻になり、司会から、「次々と演奏をするので曲の紹介はプログラムに載せた内容を参照して下さい」と発表会進行の説明が終わると、1番目の演奏です。「花」喜納昌吉/作詞・作曲 吉田親家/編曲。



〈宇佐見・江頭〉で重奏です。(昨年、アコ研旅行で行った沖縄を思い出しながら練習しました)と紹介。

続いてもう一人〈百瀬〉が加わり三重奏で「2 km」と「恋に落ちて～Fall in love～」を演奏。(和音の動きが難しかったと紹介)

2番目、独奏「Valsa No.12 Op. 70. No.2」F. Chopin 演奏者は〈小林さゆ希〉(初めてクラシックに挑戦します。今回は柴崎先生に左手のサポートをしていただきます)と紹介。ショパンのワルツを、小林さんはメロディーを弾き、柴崎先生は左手ベースと右手でコードを



刻んでいました。

3番目、独奏〈村上一郎〉「NANY(ナニー)」と「パールズ クリスタル」編曲/Willy PEPの2曲演奏。



(パールズ クリスタルは、始めたばかりなので右手だけでゆっくり弾きます。こんな感じの曲と思っていただければいいかな)と解説。モルデントやトリルの入ったきれいな曲です。

4番目、〈宇佐見、江頭、百瀬、村上〉の四重奏。



曲は「My Memorie」(日本での韓流ブームのきっかけとなった韓国のTVドラマ「冬のソナタ」の挿入歌で、

故、浜名先生のこの編曲をととても気に入っています)と解説。ユニット名も『メモリーズ』です。

5番目、独奏〈鳥居信弘〉曲は「銀河鉄道999」作曲/タケカワユキヒデ。(原作は黒ずくめの金髪美女



が貧しい未成年を騙して宇宙の果てまで連れて行く話です。でも、騙されたおかげで少年は、機械でなく血の通った人間の命の尊さに気付くちょっといいお話です)と解説。

6番目、独奏〈鎌田千津子〉曲は「パリの空の下」



(新しい曲に挑戦できなかったので、数年前に弾いた曲に再チャレンジすることにしました)と紹介。イントロが変わっていて、編曲はどなたでしょうか。気持ちの良いテンポで流れて素敵です。

7番目、重奏〈BB さゆ希と一郎〉曲は「サンジャンの私の恋人」(デュオを組んで、2曲目に取り組んだこの曲は、関東アコやXmas フェスタなどで披露さ



せていただき、思いで深い曲となりました)と紹介。3拍子の踊りたくなる演奏に、イチ、ニイ、サン ニイ、ニツ、サン、と身体が動いてしまいます。

8番目、独奏〈宇佐見加奈子〉曲は「売雑貨(うりざっか)」(中国の曲です。意味は、いろんな物売る



荒物屋のことで、郷愁を感じさせる中国の曲が好きです)と解説。筆者は初めて聴く曲で、日本のわらべ歌のように懐かしさを感じさせるメロディーです。

9番目、独奏〈百瀬まなみ〉曲は「みんなの歌メロ



レー」(NHKの「みんなのうた」小学生時代はビデオも録音もできなかったので、懸命に歌詞を書き取りました。あの頃好きだった「子犬のプルー」「壊れそうな微笑み」「勇気一つを友にして」

「小さな木の実」の4曲をメドレーにしました)と解説。暗譜で演奏されていました。

10 番目、独奏〈江頭恭子〉曲は「パリのいたずらっ子」編曲/金子元孝 (イヴ・モンタンが歌ってヒットした、パリの浮浪児を歌った曲。楽しく軽快に弾けたらと思います)と解説。いたずらっ子らしく...と思うけれど、とても心やさしい演奏でした。



11 番目、Cafe301の重奏〈鎌田、磯部〉曲は「阿姆斯特ダムのチューリップ」(この曲の歌詞は、「春になったら持って行きます、あなたのために。阿姆斯特ダムのチューリップ〜♪と、季節感はぴったり」と解説。続いて一人加わって「ドレミの歌」を演奏しました。



12 番目、M&Iの重奏〈渡部、村上〉曲は「それがアコーディオン」編曲/山岡秀明。村上さんの刻む3拍子のリズムにのせて、渡部さんが弾く和音を分散した音のつながりがきれいな演奏です。



この後 10 分程度休憩の中で、グランドハープの演奏がありました。曲は「ナイチンゲール」との紹介でした。

後半は 13 番目、独奏からです。〈渡部美代〉曲は「グラスハーモニカのためのアダージョ」(モーツァルトの晩年の作品です。水を入れたグラスの縁をぬらした指でこすって柔らかな響きを醸す楽器「グラスハーモニカ」を弾く盲目のマリアンネ・キルヒゲスナー嬢のために作られたそうです)と解説。繊細な響きをフリーベースアコーディオンで演奏します。暗譜でした。



14 番目、OBの独奏〈内田賢一〉曲は「枯葉」アレンジ/松永勇次、「雨の慕情」作詞/阿久悠 作曲/

浜圭介、「舟歌」作詞/阿久悠 作曲/浜圭介 アレンジ/五味田洋清。(内田賢一さんは昨年の沖縄旅行でお世話になった方で、沖縄から駆けつけて下さった)と紹介。地元沖縄で演奏されているのだろうか、暗譜で3曲演奏されました。ボタンアコを使っていて(ボタンをみないで弾くと怖くて、弾いているとどうしても無意識にボタンを見ちゃう)と紹介。



15 番目、OBの独奏〈高橋孝一〉曲は「コンドルは飛んで行く」作曲/ダニエル・アロミア=ロブレス(ペルー民族音楽)(folkloreの代表的な楽曲で、3部構成となっている。後に「サイモンとガーファンクル」が第1部と第2部をミックスして第1部としてカバー。これが現在の演奏主流になっている)と解説。



16 番目、重奏 M&I 〈渡部、村上〉曲は「ゴセックのガボット」(スタッカートの練習に選びました)と解説。普段ボタン式アコーディオンを使っている村上さんだけど、この曲は鍵盤式アコーディオンで演奏しました。鍵盤式は25年ぶりだそうです。バレーの曲で聞いたことがあります。



17 番目は合奏、全員で「ディズニーメドレー」指揮・指導/柴崎和圭(昨年末のJAAXmas フェスタ合奏講座の曲を、アコ研単独で演奏します)と紹介。曲は「リトルマーメイドのアンダー・ザ・シー」「ライオンキングのサークル・オブ・ライフ」「アラジンと魔法のランプ」「美女と野獣」「アナと雪の女王」の5曲演奏。女王に扮した衣装を着たりお客さんを楽しませると同時に演奏者も楽しんでいる様子が伝わってきて、会場が一段と華やかになりました。



最後は、「Yesterday Once More」編曲/浜名政昭(高橋さんがまとめた浜名先生の曲集から1曲選びました)と解説。の演奏で静かに幕を下ろしました。出演者は記念に集合写真を撮影。(記:乙津)